

1月相場の振り返り

① 東証の「企業統治」強化

- 15日には「PBR（株価純資産倍率）の改善や資本収益性を意識した経営改革策を開示」
- 17日には25年3月以降の短信などを対象に「英文開示の拡充に向けた方針」を発表（2月下旬に詳細を制度要綱を東証が発表予定）

② 好調な海外株決算（台湾TSMC、蘭ASML）やAMD、エヌビディアなど半導体株の上昇

- 半導体株の上昇でSOX指数は年始から5%高だが、1月4日安値から25日高値では15%上昇

③ 世界的にも出遅れている日本株への関心

- ようやく金融政策の正常化に動き出す、史上最高値をまだ更新していない先進国

④ アジアでの投資国のリバランス

- 中国景気への警戒から外国人投資家が中国から撤退、不動産価格の下落など

⑤ 新しい少額投資非課税制度（NISA）スタートによる個人投資家の買い資金

- JT、三菱UFJ、NTT、三菱商事、トヨタ自がランクイン（1月19日までのネット証券5社データ、日本経済新聞1月27日朝刊より）

2月相場はこうなる？

- ① 東証の「企業統治」強化
 - ② 好調な海外株決算（台湾TSMC、蘭ASML）やAMD、エヌビディアなど半導体株の上昇
 - ③ 世界的にも出遅れている日本株への関心
 - ④ アジアでの投資国のリバランス
 - ⑤ 新しい少額投資非課税制度（NISA）スタートによる個人投資家の買い資金
→これらのインパクトは弱まるが継続
-
- ① 2月中旬までは企業決算中心の個別対応
→投資家のマインド良好であれば循環物色の可能性あり
 - ② グロース市場への資金還流も起こるが本格的な反発にはまだエネルギー不足
→東証グロース市場250指数の売買代金が1300億円（1月平均は1000億円弱）
→昨年11月戻り高値をクリアできれば地合いは変わる

東証グロース市場指数 (旧マザーズ指数)

